## 都市再生整備計画 事後評価シート 環状2号線周辺地区

平成30年3月

東京都 港区

## 様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	東京都		市町村名港区				地区名    環状			2号線周辺地区 面積			85ha			
交付期間	平成25年度~平成29年度		事後評価別	<b></b> 能時期	平成29年度			交付対象事業費			371	国費率	0.45			
1)事業の実施状況	当初計画に															
		当初計画から 基幹事業 削除した事業 提案事業 新たに追加し 基幹事業				事業名				削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
	た事業 新たに追加した協定制度等	提案事業協定制度	道路占用許可の特例を活用する予定区域													
	交付期間 の変更	<u>当初</u> 変更			交付期間の変更による事業 指標、数値目標への影響											
2)都市再生整備計画 に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況		指標	·	単位	従前	直	目標個	直	数 モニタリング	値 評価値	目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要 (総合所見		フォローアップ 予定時期	
	指標1	地区計画の領	<b>策定面積割</b> 合	<del>単位</del> %	14.1	<u>基準年度</u> H25	19.9	<u>目標年度</u> H29	==3127	23.9	<u>е</u> ид	ありなし	まちづくり調査等(提案事業) まちづくり調査等(提案事業) 条を開催し、東京のしゃれた。 条例に基づ(街並み再生地区 えで地区計画を定めることで 創出する民間開発の計画的が また、併せで「街並み再生方 作成することで、今後において 運用が可能となった。	において地元勉強 まちなみづくり推進 なの指定を行ったう 、地区のにぎわいを は誘導に寄与した。 針活用の手引き」を	了是时刻	
	指標2	2 環境施策対応道路の割合		%	2.4	H25	10.6	H29		10.8	0	ありなし	保水性舗装整備(基幹事業) の大気の温度上昇が抑制され 快適なうるおいある歩行者空 全・安心でうるおいあるまちつ	れ、歩行者にとって 間が創出され、安	Н31.3	
	指標3	放置自転車の	か台数	台	486	H24	270	H29		172	0	ありなし	自転車駐車場整備(基幹事業 転車台数が減少し、自転車走 事業)、自転車シェアリング社 により、地区内における自転 遊性が向上し、安全・安心で づくりが促進された。	行空間整備(基幹 会実験(提案事業) 車の利用促進と回		
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	指 標			単位	従前	直 基準年度	目標値	直 目標年度	数 モニタリング	値 評価値	■ 目標 達成度※1	1年以内の 達成見込み	効果発現要 (総合所見		フォローアップ 予定時期	
	その他の 数値指標1 保水性舗装の気温低減率		D気温低減率	°C	I	<u> </u>	1 100 100			約1℃低減			保水性舗装の道路は一般路 て約1℃ほどの気温の低減窓 体感温度としても一般路面よ た。歩行者にとって快適な潤いが創出された。	面の道路と比較し カ果があり、路面の り冷たく、涼しく感じ	1 2247	
	その他の数値指標2	数値指標2 その他の														
4)定性的な効果 発現状況	数値指標3 - 保水性舗装と一般 熱により低減する性 ・ 自転車走行空間を	生能を確認する	ることができた。	保水性舗装	は一般舗装と比	対してもヒー	-トアイランド現象 車にとっても安全 <sup>-</sup>	の緩和や快で快適に歩	適な歩行空間の きやすく、走行し	確保につながる やすい環境となっ	ものと考えられる		 面が濡れている部分が多く死	浅っていた。以上か	ら、路面温度を気化	
5)実施過程の評価	モニタリングなし		なし	,				都市再生整 都市再生整	5再生整備計画に記載し、実施できた 5再生整備計画に記載はなかったが、実施した 5再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	プロセス生力		都市再生整備計画検討と並行して、まちづくりガイドライン、街並み再生方針の策定に関する勉強会、説明会をきめ細かに実施した。				ミ施した。	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				まちづくりの方針、計画を定める場合は住民参加、周知が適切に るよう取り組む。				
	持続的なまちづくり 体制の構築		地元組織である新虎通りエリアマネジメント協議会を母体として設立。 道路空間を活用したイベント、オーブンカフェ等エリアマネジメント活動 を行う。								織は区によって都市再生推進法人に指定されたことから、今後 なるエリアマネジメント活動を実施しやすい状況となるよう支援す					

## 様式2-2 地区の概要

	環状2 <del>号</del>	線周辺地区(東京都港区) 都市再生整	備計画事業の成果概要	Ę		
	まちづくりの目標	目標を定量化す	<b>十る指標</b>	従前値	目標値	評価値
大目標:環状2号線の整備を契機とした		地区計画の策定面積割合	単位:%	14.1 H25	19.9 H29	23.9 H29
	に資する計画的な民間開発(敷地統合・街区再編)の誘導 まちづくりに向けた取組の着実な推進	環境施策対応道路の割合	単位:%	2.4 H25	10.6 H29	10.8 H29
目標3:将来にわたり持続的に発展	まちづくりに向けた取組の着実な推進 展していくまちの実現	放置自転車の台数	単位:台	486 H24	270 H29	172 H29
○協定制度 道路占用許可の特例を活用する予 区域 ・広告塔 ・食事施設・購買施設 【対象区域】	○関連事業 環状二号線新橋・虎ノ門地区第二種市 街地再開発事業 □提案事業 事業活用調査:まちづくり調査等	虎/門駅 内雪	道路■基	幹事業事業:保水性舗装整備 幹事業生活基盤施設事業:自転車		
	口提案事業 事業活用調査:自転車シェアリング社 会実験	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	駐車: ■基 高質:	学事業 空間形成事業: 自転車走 調整備		
まちの課題の変化 達成されたこ	・エリアマネジメント活動により、地域主体のまちづくりの・道路占用による店舗等の設置により、にぎわいのある・街並み再生地区の導入において、生活利便施設、広境・「自転車走行空間整備」、「保水性舗装整備」が地区の・街並み再生地区の導入において、敷地統合、街区再絡た。と・街並み再生地区の導入により、環状2号線に面してにわ、一体的な街並み形成に寄与するものとなった。・手引きの作成や相談会を開催することで、課題解決に・「環状2号線新橋・虎ノ門地区第二種市街地再開発事業能な空間の形成に寄与している。・「保水性舗装整備」、「自転車走行空間整備」、「自転車臨海部間辺地区への主要な動線となる環状2号線との	空間が創出され、地区内に活気が創出る 易上空地、緑化等を位置づけ整備を誘導 主要な道に広く実施されたことによって、 幅によるインセンティブを定めることにより ぎわい施設の整備や壁面位置の制限を 寄与する民間計画が推進した。 業」によって主要な幹線道路に十分な緩 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	をれた。 した。 回遊性、安全性の向より、土地を有効活用する 位置づける等街並み形 衝域が生み出され、緊急を補完する南北動線を	民間開発を誘導し 成の骨格が構築さ 新たな 課題 急時にも対応が可	・保水性舗装は、一般的に長期温度の低減効果が低下する。効実施する必要があり、効果的ながある。 かある。 ・さらなる駅へのアクセス性の向転車シェアリングポートを設置、要である。	果を維持するために散水 放水方法等を検討する必要 上を目指し、主要駅近くに
・委託による散力 ・エリアマネジメ ・現在実施してい ・街並み再生方行	・	施し、併せてヒートアイランド防止に努め う。 を付与し、広告塔、食事施設等の設置に を図る。 知に努める。	る。	 路占用許可の特例範囲を拡大す	⁻శ	